

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673100105
法人名	有限会社 タンポポ福祉館
事業所名	グループホーム タンポポ福祉館
訪問調査日	平成 20 年 8 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4673100105
法人名	有限会社 タンポポ福祉館
事業所名	グループホーム タンポポ福祉館
所在地	鹿児島県鹿児島市春山町1855-7 (電話) 099-278-7110

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年8月30日 評価確定日 平成20年11月11日

【情報提供票より】(20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 19 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 5 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 12.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造コロニアル 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 800 円				

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	60 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川畑内科クリニック・脇丸医院・奥歯科
---------	--------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは鹿児島市の郊外に位置し、緑豊かな自然と青々と茂る芝生の広場や畑があり、四季折々の季節を感じながら生活できている。職員はこれまでの利用者の生活習慣や価値観を重要視し、個別介護を行うと共に自尊心を傷つけぬよう心しながら日夜介護に携わっている。利用者の筋力低下防止、身体の残存能力を生かした介護、口腔ケアの徹底、美味しい食事の提供と健康管理、1日数回の不潔清掃をし、清潔保持等特に力を注いでいる。又、職員同士は仲良くいつも笑顔で利用者に接し、明るい雰囲気業務に携わっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>6つの改善課題は、運営推進会議の記録はその後会議録として保管されている。同業者との交流では県や市のグループホーム協議会のネットワークに参加交流し日々のサービスや職員育成に役立てている。相互訪問も今後実施予定である。介護計画では地域住民の老人会来訪や小中学校との交流、外出が計画されている。現在重度化や終末期に対応する計画はないが、診療時は家族にも立ち合ってもらい情報共有は出来ている。災害時の飲料水や食料の備蓄はなされている。栄養や水分確保は栄養士が定期的にチェックし1日1500Kcalは摂取できている。</p>
	<p>評価のねらいについては職員はよく理解しており、自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の確保にいかしていく姿勢である。評価結果はミーティングで伝達しマンネリ防止策としている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2カ月1回開催し、利用者家族、民生委員、包括支援センターの職員、ホームの職員で構成している。利用者の生活の様子や外部評価の結果等も報告し改善計画についてもメンバーの意見をもらっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>1カ月に1回は利用者の暮らしぶりや行事案内、受信時の事項などお知らせしている。ホーム便りも年2~3回発行し家族へ近況報告している。意見箱も設置し面会時は職員はよく声掛けて要望など聞くよう心がけているが、なかなか意見がもらえてないのが現状である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の高齢化もあり、地域へ出かけての活動は困難となっている。地域老人会からの訪問や中学校の職場体験の受け入れ時には買い物など外出もしている。職員は町の救急ボランティアに登録して地域との交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のそれまでの生活習慣や価値観を重要視し、個別介護を行なうと共に自尊心を傷つけないよう心しながら「この世でたった一人の貴方を大切に」、「ありのままの貴方をよく理解し」、「貴方らしく生きられるように」、「私がされて嫌な事は致しません」、「笑顔で助け合って」、「地域住民との交流を大切に」を独自の理念とした地域密着型サービスの役割を理解した理念になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、台所、ホールの誰にでも見える場所に貼り日々職員は意識づけしている。なおミーティングで管理者、職員は共に理念の実践にむけてやさしい言葉かけ、スキンシップを意識して行動化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の高齢化もあり、地域へ出かけての活動は少々困難になっているため地域の老人会の訪問を受け交流を持ち、年に1~2回の中学生の職場体験も受け入れ利用者の張りにもなっている。買い物や美容院にも出かけることもあり、年間行事にはボランティアや大学生との交流も計画され地域とのお付き合いがなされている。職員は救急ボランティアや救急ステーションに登録しこれからはキャラバンメイトの講師も考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者を中心に全職員で取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺える。評価結果はミーティングで伝達しマンネリ化防止策とし、緊急災害時の飲料水の備蓄や栄養士による栄養バランスの配慮など具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開き、利用者の家族、民生委員、包括支援センターの職員、ホームの職員で構成され利用者の生活の様子や外部評価の結果を公表しその改善計画についてもメンバーの意見をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者とは利用者のことで疑問点や分からないことがある場合相談したりして連携をとり指導助言を受けている。生活保護の書類、対応困難事例の相談、キャラバンメイト会員の相談等して問題解決を図っていく取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回は利用者の暮らしぶりや様子、立て替え支払の領収書、行事案内等にそれぞれコメントを書いて送付している。なお受診時はその都度、家族にお知らせしている。またホーム便りを年2～3回発行し家族への近況報告もしている。職員の異動時は家族の面会時に紹介し顔を覚えて頂けるよう配慮している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、職員はよく声掛けし、要望等を伺うよう細やかに気遣いし個別にコミュニケーションもよくして意見を頂けるよう配慮している。意見箱も設置しているが、なかなか意見はもらえていないのが現状である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員の退職者も少なく、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制が取れている。又普段よりりんどう棟、すみれ棟の行き来をしながら顔馴染みになり年間の行事などお互いに連絡しながら取り組み、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内にはその必要から、よく参加し報告や復命書も書き、毎月のカンファレンスを通じ働きながら知識や技術を高める努力がなされている。		今後は職員の意見も取り入れながら、職員各自に応じた年間研修計画を立て実施し職員の質の確保、向上にむけて取り組まれることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県や市のグループホーム協議会のネットワークがあり、交流し、日々のサービスや職員育成に役立つよう取り組んでいる。今後は相互訪問等も計画実践し質の向上を旨とし、ひいては地域全体のサービス水準の向上を目指す予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所申込み者に対しては、職員が直接、本人、家族に面談し理解を得ている。又、時に本人、家族共々来所してもらい、お部屋や間取り、他の利用者の様子や生活状態を見学してもらい納得して入所してもらうよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の関わりの中で場面をうまくとらえ、人生の大先輩としての尊厳を守りながら知恵をもらっている。昔話をしたり、聞いたり、料理の準備や台所仕事をしながら味付けなど教えてもらっている。誕生会には本人の好みのものを一緒に料理し、手伝い、喜びを共にしている。利用者同士の気持ちの行き違い時は、良く声かけし、又は、職員は分担しながら接し、利用者同士の関係性がうまく築かれるよう支援している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時、どんな暮らし方をしたいのか、本人、家族から、その生活感や習慣を伺い、又、利用者一人ひとりとの日常の会話の中から要望、希望を知り、それがかなえられるよう支援している。お墓参りやお寺参り、入院者をお見舞いし、そして外出希望者にはそれに添い、そして困難な場合は家族と連絡を取り、意向に添えるよう本人本意に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時、本人、家族から情報収集し、又、日常生活の関わりの中からアセスメントをして、本人、家族、職員とカンファレンスして意見を出し合い、利用者本位の介護計画を立てている。職員はミーティング時、意見やアイデアを出し、外出や好きな食べ物、過ごし方等計画され、利用者主体の介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回、職員間で利用者一人ひとりの介護計画についてカンファレンスし意見を出し合い計画に反映している。なお、定期的にモニタリングや評価も行い、原則的には3ヶ月に1回見直しをしている。又、利用者に急な体調等、状況変化がある場合、本人、家族とも話し合い、臨機応変に対応し介護計画の見直しを行っている。見直し事項については全職員への申し次ぎも徹底している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じ、協力医とも連携しながら通院や受診時の介助、送迎を行っている。又、墓参り、お寺参りや入院者のお見舞い等、特別な外出の支援もしている。又、地域で職員は救急ボランティア登録もして、必要時は事業所として地域住民の求めに応ずるよう体制がとれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人や、家族の要望どおり、かかりつけ医、又は協力医への通院や受診を行い、又、往診もあるため身体状況等の情報交換も、医療も受け、健康管理がなされている。受診結果については、その都度、家族に連絡し納得を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところホームとして重度化や終末期に対応する計画はないが、管理者、職員、家族では方針を共有している。診療時に家族に立ち会ってもらい、情報を共有し方針を統一している。		重度化や終末期について、家族会等でも説明し重要事項の中にもホームとしての方針を記して説明することが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を守ることの大切さをよく理解している。日常的には手洗いの誘導や失敗時の声かけに注意し、更衣は本人の部屋でするようにして誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、又、入浴は男性から先に使い、浴室でのトラブルがないよう配慮している。職員は入職時、個人情報保護の観点から誓約書を作成し、署名、捺印し、本人及び家族のことにについて秘密保持、漏洩防止が図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人が主体となって毎日が過ごせるよう一人ひとりのペースに合わせて支援している。その日「したい事」を聞き、買い物或いは外食にお供し、お墓参り、ぶどう狩り、みかん狩りに出かけたりしている。又、起床、就寝時間も自由であり、本人の望む過ごし方ができるよう柔軟に支援している。		

鹿児島県 グループホーム タンポポ福祉館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力量や体調を配慮しながら、職員と共に食事の準備、味見、盛り付け、そして後片付け等をしている。職員も同食卓と一緒に食事をとり、会話しながら楽しい時間となっている。又、馴染みの湯飲みや箸等を使用し、クラシック音楽を流し、ムードよくして食欲も湧くよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、その日の状態等配慮しながら入浴可としている。月～土曜日まで入浴ができる。一番風呂を好む利用者もあり、一応順番を決め、お互いのトラブルがないように配慮している。なお、職員は利用者の入浴時の羞恥心や不安感等への配慮もしながら個別入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量やこれまでの仕事や趣味を生かし役割や楽しみ事、気晴らしの支援がなされている。隣接の畑を散歩したり竹の子や牛蒡、つわぶきなどを食材にして、料理を作り、好きな歌を唄い踊り、好きなテレビを見たりして楽しみ、新聞たたみや雑巾縫いの役割もあり、又、利用者の意見を取り入れ誕生会や敬老会を催し利用者のアクティビティを支えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散のためにも、なるべく屋外にでれるよう配慮し、日常的には玄関先に出てベンチで寛ぎ、談笑し畑に出て野菜の成長を眺め、季節によっては秋桜、桜、向日葵の花見に出かけたりと戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの敷地が交通量の多い県道に面している玄関には施錠している。居室は鍵をしなないでいつでも出入り自由である。職員は一人ひとりの所在確認をしっかりし、声掛けなど、まめにして安全確保に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消防署の指導も得ながら避難訓練を実施している。そのほか、月に1回は自主避難訓練も行い、災害時避難誘導ができるよう訓練している。なお予期せぬ地震等に備え、飲料水、ビスケット、乾麺等備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の摂取量をチェックし記録している。献立については栄養士が定期的にチェックし1日1500Kcal摂れるように、飲水量は1日1200～1300cc摂れるよう配慮している。又そうめん流しや寿司屋に行ったり、本人の誕生日には好みの物を作り暮らし全体を通して食欲を促し食が進むよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはいつも季節の花を飾り、大きな狸の置物が人を出向かえ、見送りし、共用の居間にはソファー、畳があり、壁には写真を掲げ利用者はそれぞれ好きな場所で過ごしている。居間とつぎの台所からは料理の匂いや音も聞かれ生活感や季節感を感じ、居心地よく過ごせるよう空間づくりができてい		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時あるいは面会時家族とも相談し、今まで使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。寝具、、クッション、衣類をはじめ大正琴やカレンダー、家族の思い出の写真、仏壇等持ち込み、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう居室作りがなされ、不安やダメージを最少にするよう配慮されている。		